

魅力発信！えひめ農業NOW

令和3年8月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、8月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

魅力発信！えひめ農業NOW(8月分)

局・支局	室・拠点	No.	標 題	頁
東予	地域	1	丹原高校グローバルGAP審査と台湾へブドウを輸出	1
東予	地域	2	えひめ地域鳥獣管理専門員が連携し、東予地域の鳥獣害対策を強化	1
東予	地域	3	ニホンザル被害対策に向け、捕獲体制を強化	2
東予	地域	4	耕作放棄地解消へ青年農業者が農地パトロールに参加	2
東予	四中	5	やまのいもの安定生産に向け、栽培後半のポイントを現地で指導！	3
東予	四中	6	土居町上野地区、サルの有効な防除と捕獲に向けて前進中	3
東予	産地	7	管内の加工用青ねぎを調査	4
東予	産地	8	6次産業化による経営規模拡大を目指す農業者を支援	4
今治	地域	9	新たにさといもでのドローン防除に期待	5
今治	地域	10	スマート農業技術の導入によるデータの「見える化」	5
今治	地域	11	動画レシピで、今治産「甘長とうがらし」のPR方法を学ぶ	6
今治	地域	12	今治地域の新規就農者・青年農業者が農作業安全について学ぶ	6
今治	地域	13	「今治農業女子」がかんきつ栽培の基本を学ぶ	7
今治	地域	14	今治地域の「えひめ地域鳥獣管理専門員」が鳥獣害対策について連携	7
今治	地域	15	高校生を対象としたマルドリ栽培研修会を開催	8
今治	しまなみ	16	新規就農者の経営状況を確認	9
今治	産地	17	醸造用ぶどうの栽培研修会を開催	10
今治	産地	18	かんきつ省力品種「農6」の技術確立を目指して	10
中予	地域	19	高浜地区改良復旧かんきつ園地の営農支援	11
中予	地域	20	1台で何役も！新たな農業用無人車を新規就農候補者にデモ展示	11
中予	地域	21	さといもの生育順調	12
中予	地域	22	就農者への巡回指導を実施	12
中予	伊予	23	管内集落営農組織でさといもの巡回調査・指導を実施	13
中予	伊予	24	中山栗モデル園の生育順調	13
中予	伊予	25	七折小梅生産安定プロジェクトチーム会議で連携を強化	14
中予	伊予	26	広田自然薯組合が伊予農業高校との夏季研修会を開催！	14
中予	久万	27	久万高原町の在来種とうもろこしを全国誌「家の光」で紹介	15
中予	久万	28	収穫に向けて水稻の病害虫一斉調査を実施！！	15
中予	産地	29	「甘平」の隔年結果対策となる結実管理の有効性を実証	16
中予	産地	30	東京での新たな販売チャネル構築を支援	16
南予	地域	31	宇和島市の女性農業委員らが認定農業者制度について学ぶ	17
南予	地域	32	女性農業者対象の加工品開発研修会を開催	17
南予	地域	33	さといもの産地づくりに向け様々な取組を展開	18
南予	地域	34	長雨に伴う早期米収穫時の技術対策について	19
南予	地域	35	地域の状況に応じた「ひめの凜」の高品質生産に向けた取組を展開	19
南予	地域	36	温州みかんの品質向上を目指した新技術の実証	20
南予	鬼北	37	県立北宇和高等学校での「ひめの凜」出前授業を実施	21
南予	鬼北	38	青年農業者の経営発展に向けた夏季研修会を開催	21
南予	鬼北	39	きゅうりハウスの内部改修による品質向上、収量アップを目指して	22
南予	愛南	40	令和3年産に向けた秋冬ブロッコリー作付け栽培講習会開催	23
南予	愛南	41	河内晩柑の活用方法を学ぶ	24
南予	愛南	42	愛南地区青年農業者協議会がかんきつ園地互評会を開催	25
南予	愛南	43	町内放送で長雨による適期防除の呼び掛け	25
南予	産地	44	地域商社農業者の育成による新たな販売モデルの構築	26
南予	産地	45	うめの収穫ネット設置方法の改良により作業効率化へ	26
南予	産地	46	今年産ゆずの着果状況を確認！今後の栽培管理指導を共有	27
八幡浜	地域	47	農事組合法人笑柑園ナカウラの農地活用計画について検討	28
八幡浜	地域	48	みかん収穫アルバイター確保説明会の開催	28
八幡浜	地域	49	第3回シトラス講座で鳥獣害対策を紹介	29
八幡浜	地域	50	一次産業女子が就農相談会で農業の魅力を発信！	29
八幡浜	地域	51	南予の若手普及職員らが一致団結 相互研鑽で指導力向上を目指す	30
八幡浜	地域	52	異常気象にも対応、清見の高品質果実生産に向けたカルシウム剤散布試験を実施	30
八幡浜	大洲	53	「さくらひめ」夏越し栽培に取り組む	31
八幡浜	大洲	54	夏越しきゅうり安定生産に向け病害虫調査を実施	31
八幡浜	大洲	55	いちご生産者全戸で炭疽病調査と硝酸態窒素測定を実施	32
八幡浜	大洲	56	鳥獣害防止対策は地域一丸で！	32
八幡浜	大洲	57	大洲市で鳥獣管理専門員実践講座がスタート	33
八幡浜	西予	58	水稻の刈取適期を積算温度計で可視化	34
八幡浜	西予	59	大野ヶ原にんにくの加工支援と販売促進！	34
八幡浜	西予	60	高品質生産による有利販売を目指して奥伊予特選栗の審査会を実施	35
八幡浜	西予	61	ミニトマト夏秋栽培等における高温対策に向けた取組を推進	36
八幡浜	産地	62	加工用青ねぎの夏季育苗に関する実証試験をスタート！	37
八幡浜	産地	63	かんきつを利用したフルーツソースの商品化に向けて	37
農産園芸	高度普及	64	「甘平」裂果のメカニズムについて果樹調査研究会で協議	38
農産園芸	高度普及	65	タオル美術館等でいちごの新規格栽培システムを設置、実証をスタート	39
農産園芸	高度普及	66	さといもの生産振興に向け、出荷前の掘取調査を実施	40
農産園芸	高度普及	67	「ひめの凜金賞プロジェクト」穂肥と生育調査を実施	41
農産園芸	高度普及	68	コロナ禍に対応した水稻採種ほの非接触型審査がスタート	42
農産園芸	高度普及	69	首都圏での流通・販売動向等調査の検討会の開催	43

東予地方局 地域農業育成室

■丹原高校グローバル GAP 審査と台湾へブドウを輸出

- 地域農業育成室では8月3日、丹原高校園芸科学科が取り組んでいるブドウのグローバル GAP 更新審査を支援した。
- 6月に当室が実施した内部審査では、地図の表記やガソリン使用量のモニタリング記録を残すことなど、8項目について改善するよう指導したこともあり、本審査での是正箇所は2項目であった。
- また、8月17日には同校生徒8人と教員3人らがグローバル GAP 認定を受けたシャインマスカット40房とニューピオーネ40房の計80房を台湾へ輸出した。
- 今後も当室はグローバル GAP 更新や輸出の促進に向け、支援する。



グローバル GAP 審査

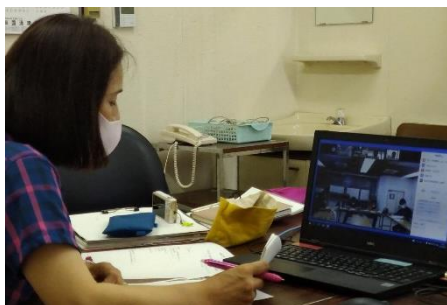


ブドウの梱包作業

※グローバル GAP：食品安全・労働環境・環境保全・人権保護・農場経営の5項目に配慮した「持続的な生産活動」を実施する農業者に与えられる世界共通の認証制度。

■えひめ地域鳥獣管理専門員が連携し、東予地域の鳥獣害対策を強化

- 地域農業育成室は8月12日、「第2回東予地域えひめ地域鳥獣管理専門員連絡会」をリモート開催し、今年度作成する指導資料について協議を行った。
- 当連絡会は、東予地域の鳥獣管理専門員が、担当地域における鳥獣被害の課題解決に向けた取組を効果的に実施するため、専門的な技術、知識等の収集や資質向上等を目的に開催している。
- 今年度作成する指導資料は、「イノシシ被害対策事例集」とし、鳥獣管理専門員が被害状況把握・被害対策提案等の指導を行った事例をまとめることとした。
- また、連絡会には今年度の鳥獣管理専門員育成講座受講生も参加しており、当連絡会での活動を通じて受講生の育成指導も行う。
- 次回は、11月上旬にイノシシによる被害対策に集落で取り組み、効果を上げている事例現地研修等を実施する予定。



事例集作成について協議



リモートで意見交換

■ニホンザル被害対策に向け、捕獲体制を強化

- 地域農業育成室は、ニホンザルの被害対策を進めるため、西条市丹原町寺尾地区で ICT を活用した大型箱罠による捕獲実証を実施している。
- 当地区の捕獲体制を強化するため、昨年度は、群れの出没状況等を確認しながら大型箱罠に加え小型箱罠を3基追加した結果、小型箱罠で4頭の捕獲に成功した。
- 小型箱罠の追加設置により、警戒心が強く大型箱罠には近づかない個体を捕獲できたことで、集落では今年度新たに小型箱罠3基を自作し、さらなる捕獲の強化のため増設した。
- 箱罠の管理は集落の狩猟免許取得者2名が中心に行い、地域農業育成室はセンサーカメラを用いてサルの出没状況の確認をしながら、設置場所や移動時期などを指導、支援することとしている。



今年度自作した小型箱罠



設置場所を検討し、柿園へ設置

■耕作放棄地解消へ青年農業者が農地パトロールに参加

- 地域農業育成室では8月10日、23日に、青年農業者による耕作放棄地解消に向けた農地パトロールの取組を支援した。
- この取組は、「地域の耕作放棄地を解消したい」との青年農業者の意見から、青年農業者協議会内で検討し、青年農業者の力で耕作放棄地の復田を目指すもの。
- 今回、農業委員会の了解を得ることができたことから、地区の農業委員等とともに農地パトロールに参画し、耕作放棄地20～30筆を巡回して復田が可能な農地3筆を各地区で選定した。
- 今後、同協議会は選定した耕作放棄地の写真や地図を参考に、除草や耕起方法等を検討するとともに、農業委員会を通じて地権者の了解を得ながら、早期の復田を目指すこととしており、地域農業育成室は、引き続き耕作放棄地解消に向けた活動を支援する。



農地パトロールの様子



耕作放棄地の現状

東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

■やまのいもの安定生産に向け、栽培後半のポイントを現地で指導！

- 四国中央農業指導班は8月2、3日の2日間、JAうまと連携し、土居町内4カ所でやまのいも現地講習会を開催し、山の芋専門部会員延べ21人が参加した。
- 講習会では、水管理や施肥管理、防除に係る技術情報を提供した。特に、昨年度は、生育中後期に晴天乾燥が続いた後の降雨で、芋に小さなひび割れができ、品質が低下したことから、生育中後期にも走水程度のかん水を行うことを注意喚起した。
- また、当班敷地内に設置している「フェロモントラップ」でのハスモンヨトウ成虫の誘引数の推移や生態に基づいた発生予想、それに伴う防除などについて指導した。
- 農家からは、「かん水間隔やかん水終了時期の判断が難しい」「現地での指導や農家間の情報交換はとても参考になる」などの声が上がった。
- 当班では、今後もJAうまと連携し、やまのいもの安定生産に向けた生産指導を行う。



やまのいもの生育や病害虫の発生状況を確認



指導班からの情報を熱心に聞き取る農家

■土居町上野地区、サルの有効な防除と捕獲に向けて前進中

- 四国中央農業指導班は8月1日、四国中央市農業振興課と連携し、土居町上野地区の農業者グループ6人を対象に、簡易箱わなの製作を指導した。
- 近年、同地区はサルによる被害が増加傾向にあり、被害防除と併せた効率の良い捕獲方法の導入が喫緊の課題となっている。導入した簡易箱わなは安価な上に、軽量で取り回しやすく移設が容易なことから、同地区での普及が見込まれている。
- また、8月2日には「えひめ地域鳥獣管理専門員総合育成事業」の一環として、講師の阿部氏らと同地区の被害状況等を調査し、調査結果に基づいた有効な箱わなの設置場所を選定するなど、効果的な捕獲を目指している。
- 当班は引き続き、市や現地農業者と連携し、有効な被害防除と捕獲方法を模索するとともに、情報提供や講習会等の開催により、地域に適した鳥獣害対策を指導する。



簡易箱わなの製作指導の様子（8/1）



現地調査の様子と確認されたサルの痕跡（8/2）

※簡易箱わなは中予地方局農業振興課が作成した「中型獣用簡易箱わな製作マニュアル」に基づき製作。

東予地方局 産地戦略推進室

■管内の加工用青ねぎを調査

- 産地戦略推進室は8月6日、管内の加工用青ねぎの生育状況を把握するため、10haを超える栽培を行っている法人のほ場を調査した。
- 当日は、四国中央市内の生育異常を示している4ほ場を調査し、生育後期又は収穫後のほ場では白絹病や軟腐病、定植後に生育停滞しているほ場では塩類濃度が通常の2倍となっていることなどを確認した。
- 同法人の栽培責任者からは、「防除を徹底するとともに、出荷後の商品に腐敗が生じないように厳密な調製作業や適正な肥培管理を行いたい」との声が聞かれた。



生育状況等を確認

■6次産業化による経営規模拡大を目指す農業者を支援

- 産地戦略推進室は8月2日、産直市等での売上げ拡大を目指して自家産米を使用した菓子類を製造する法人に対して支援を行った。
- これは、同法人の要望を受け実施したもので、当日は、当室が要請した6次産業化サポートセンターのプランナー出席のもと、法人の現状や6次産業化部門の展望等のヒアリングを行い、主力商品である自家産米を使用したパン豆の製造拡大と高級菓子の開発など、おおまかな方向性を導き出すことができた。
- 同法人からは、「今まで自分の中で結論が出なかったことが明確になり、経営計画の作成にあたって大変参考になった」として、「今後も継続して経営改善に向けたアドバイスをしてほしい」との要望があった。
- なお、当室では、「コロナ禍での売れる商品づくりプロジェクト」も活用し、同法人を支援することとしている。



主力商品の米菓子

東予地方局今治支局 地域農業育成室

■新たにさといもでのドローン防除に期待

- 地域農業育成室では、8月26日、JAおちいまぱりと共同で、さといもに登録のある農薬によるドローン防除の効果測定と普及を行うため、実演会を開催し、20人が参加した。
- 実演会では、農林水産研究所の協力を得て、試験感水紙を用いた薬剤の付着状況と防除時間を確認したところ、防除時間は50a（2ほ場）で50分程度と大幅な作業負荷軽減や省力化が期待できるものの、葉裏の農薬の付着はほとんどないことや、繁茂の程度により付着率に差異があることが課題となった。
- なお、水稲では、当室が重点的な支援を行っている農事組合法人かみあさくらライスセンターが15haでドローン防除を予定するなど、JAと連携して、昨年対比2.5倍（50ha）の取組を見込んでいる。
- 当室は引き続き、ドローンによる防除効果や有効な活用方法の検討を進めていく。



水稲のドローン防除



さといものドローン防除

■スマート農業技術の導入によるデータの「見える化」

- 地域農業育成室では、集落営農において農地管理システムを活用した生産性の高い水田農業の実現を支援している。
- 支援対象の農事組合法人かみあさくらライスセンターでは、今年産からクボタスマートアグリシステム(KSAS)を搭載したコンバインで、ほ場ごとの収量の把握や品質分析等に利用するなど、営農データの「見える化」に取り組んでいる。
- 8月24日より、令和3年度の早期米(コシヒカリ)3.3haの刈取りがスタートし、法人の構成員からは、「作業効率の改善に役立てたい」「ほ場ごとの結果を、次年度の栽培管理に活かしたい」などの声が聞かれた。
- 当室は、収集したデータをもとに、ほ場ごとの収量差と管理作業の違い等について分析し、生産性の高い水田農業を支援する。

※ KSAS : 株式会社クボタが手掛けるクラウドシステムで、栽培管理記録や収量データ等をクラウド内で一元管理し、作業効率や生産性の向上を図ることができる。



システム搭載機による収穫作業



作業記録をスマートフォンへ入力する農業者

■動画レシピで、今治産「甘長とうがらし」のPR方法を学ぶ

- 地域農業育成室は8月5日、今治市生活研究協議会、農業女子、青年農業者16人を対象に、県立農業大学校と連携し、(株)フードスタイルの近藤路子氏を講師に、今治産甘長とうがらしを使った「甘長とうがらしのバスク風煮込み」の特産品開発講座を開催した。
- 今回の講座は、コロナ禍で一昨年から小中学生を対象とした対面式の食農教育行事が開催できていないことから、映像で地元の農産物を使った料理や郷土料理を伝えるための「動画レシピ」の制作方法を学ぶことを目的としている。
- 当日、参加者は、事前に撮影していた講師の調理手順を視聴し、対面での実習指導との違いを体感した。
- 講師からは動画制作する際に、「甘長とうがらしの食べ方をどう伝えていくのか、そのために甘長とうがらしの特徴をどう活かしていくのかが大事」「誰が見るのか、何を伝えるのかを決めて撮影し編集する必要がある」とアドバイスがあった。
- 参加者からは、「動画レシピの編集で伝えたいポイントを文字や音声で入れる」「料理だけでなく、栽培状況についても映像で伝えるようにしてはどうか」等の意見があった。
- 今後、当室は、複数の「動画レシピ」制作とインターネット公開に向けた支援を行っていく。



動画レシピの視聴



調理実習



講師より動画レシピについて助言

■今治地域の新規就農者・青年農業者が農作業安全について学ぶ

- 地域農業育成室は8月11日、新規就農者・青年農業者等10人を対象に「農作業安全講座」を開催した。
- 当講座は、青年農業者協議会の役員会で、「Iターン等の新規就農の人は基礎を学ぶ場が少ない、例えばロープワークなど実践的な技術を学ぶ講座を開催して欲しい」との意見があったことから開催したもの。
- 講座では、JAおちいまばり農機センターの職員を講師に、トラクタや管理機の安全な使用方法、草刈機等のメンテナンス方法について実際に農機具を扱いながら学び、さらに、軽トラックで田植機を固定し運搬するためのロープワークを実習した。
- 参加者からは、「キャリアを積んだ場合は、どのようにロープをかければ安定するのか」、「草刈機の燃料の保管方法はどうすればいいのか」など、多数の質問が出た。



トラクタ操作及び管理方法の講習



田植機を固定するロープワークを実習

■「今治農業女子」がかんきつ栽培の基本を学ぶ

- 地域農業育成室は8月24日、「今治農業女子」5人を対象にかんきつの栽培技術を学ぶ経営支援講座を開催した。
- 会では、普及指導員が、かんきつの生理生態と肥培管理や経営の視点からの品質管理、さらには、品種構成や効率的に作業する方法について説明した。参加者は、慣行栽培や有機栽培など、それぞれの栽培方法に応じて、売上目標を立て、現在の肥培管理について再検討していくことになった。
- また、参加者の園地を回り、実際にメンバーが栽培している状況を見ながら、適正な管理について学んだ。
- 当室は、今後は個々の売上目標の達成を目指し、学んだ技術が確実に実行できるよう支援を行う。



かんきつの生理生態について学び、園地で管理方法を学ぶ

■今治地域の「えひめ地域鳥獣管理専門員」が鳥獣害対策について連携

- 今治地域ではイノシシ等による農作物被害が大きく、農業者からは防護柵の設置や管理方法の相談が増えている。そこで、当地域の「えひめ地域鳥獣管理専門員」が被害状況や対策指導状況について情報共有し、連携した活動を実践している。
- 8月は、農業法人が設置している電気柵やワイヤーメッシュ柵の管理指導や、新規に電気柵等を設置する農業者への指導を実施した。また、各鳥獣管理専門員が連携してセンサーカメラを設置し、野生動物の出没状況等を情報共有した。
- なお、8月12日に開催された東予地域えひめ地域鳥獣管理専門員連絡会には、当地域からは4人の鳥獣管理専門員と今年度の受講生1人が参加し、農業者にわかりやすい「イノシシの対策事例集」を連携して作成していくことになった。



電気柵の電圧チェック



センサーカメラの設置



東予地域の連絡会（8/12）

■高校生を対象としたマルドリ栽培研修会を開催

- 地域農業育成室は8月6日、今治農業魅力発信事業の一環で、今治南高校園芸クリエイト科の生徒6人を対象に「甘平」のマルドリ栽培研修会を開催した。
- 当日は、当室がマルドリ栽培の方法や利点について説明し、大信産業株式会社の渡邊氏がかん水チューブやマルチシートの設置方法について指導した。
- 高校生からは「実際に作業を体験し、マルドリの特徴が理解できかんきつ農業への関心が高まった」等の声があった。
- 来年1月には収穫体験を実施する予定で、引き続き次代を担う高校生などが就農に関心を持つ機会を増やすことで、将来の担い手の確保につながる活動に取り組む。



マルチシートの設置

今治支局地域農業室 しまなみ農業指導班

■新規就農者の経営状況を確認

- しまなみ農業指導班は、今治市、上島町担い手育成総合支援協議会、JA等と連携して8月5日から23日にかけて管内で農業次世代人材投資資金を受給する新規就農者24人（うち今治市18人、上島町6人）と面談を実施。就農定着における経営上の悩みを聞き取った。
- その結果、県外から移住した新規就農者や有機栽培に取り組む方々には、農地の確保や収益性の高い品種への更新、出荷経費の圧迫、労力に見合った経営規模の適正化など、定着に向けた多くの課題があることが判明した。
- 当班は、これらの課題を解決し新規就農者が円滑に定着できるよう、引き続き関係機関と連携し支援を行う。



新規就農者との面談



新規就農者の園地を確認

今治支局 産地戦略推進室

■醸造用ぶどうの栽培研修会を開催

- 産地戦略推進室は8月5日、醸造用ぶどう生産者の技術力向上と新規栽培者の掘り起こしを図るため、今年度2回目となる栽培研修会を開催し、生産者や醸造用ぶどう栽培に関心のある青年農業者等6人が参加した。
- (株)大三島みんなのワイナリーと当室から、連年安定生産と高品質化のため7～8月に行う「摘芯」や「摘葉」等の管理作業について説明し、梅雨明け後、降雨が全くなかったことから、樹の状態に応じて「かん水」を行うよう指導した。
- その後、参加者らは、ワイナリー担当者の指導のもと、絡まるネットに悪戦苦闘しながらも協力し合って、防鳥ネットの設置作業を体験した。



栽培管理の説明



防鳥ネットの設置を体験する参加者

■かんきつ省力品種「農6」の技術確立を目指して

- 産地戦略推進室では、令和元年度から、かんきつの省力栽培品種として期待される「かんきつ中間母本農6号（通称：農6）」の栽培実証や加工品開発に取り組み、今年度も大三島の現地ほ場において、生育調査や摘果実証試験を継続している。
- 「農6」は、2～3月に成熟するかんきつで、果実の大きさは温州みかんと同程度。はさみを使わない「手もぎ」収穫が可能なることから、1分当たり4.2kgもの果実が収穫できる。また、高糖度で食味が良く、β-クリプトキサンチン等多くの機能性成分を有している。
- さらに、これまでの実証試験により、農薬散布や摘果作業の省力化も見込まれている。
- 管内の栽培者数はまだ少ないが、今春苗木を植えた農業者もおり、当室では引き続き、生産技術の早期確立に取り組んでいく。



農6の着果状況



摘果試験処理

中予地方局 地域農業育成室

■高浜地区改良復旧かんきつ園地の営農支援

- 地域農業育成室は8月27日、松山市農業指導センターと連携して松山市高浜地区の改良復旧園地でかんきつ園地の土壌を調査した。
- 同調査は、令和2年3月に定植したレモン園を対象に、同年7月から全面被覆した黒色防草シート下の土壌環境や根の発達状況を確認する目的で実施。
- その結果、根域は表層から約20cmの深さのみで発達しており、下層は土質の異なる青灰色の土壌であることが確認され、今後も継続的に堆肥を施用することなどを検討した。
- 当室は、今回の調査結果や持ち帰った土壌分析に基づく土壌改良の方法や時期を生産者と相談して検討するとともに、引き続き、ほ場巡回や関係機関との情報共有等を通じて、同地区の営農再開後のかんきつ園地成園化を支援する。



生産者・関係機関とともに、シート下の土壌や根域分布状況を確認

■1台で何役も！新たな農業用無人車を新規就農候補者にデモ展示

- 地域農業育成室は8月23日、松山市堀江のJAえひめ中央新規就農研修センター堀江柑橘研修ほ場で、農業用無人車の見学会を開催した（同研修センター研修生の協力を得て行っているドローンによる黒点病防除に併せて実施）。
- 当日は、民間事業者が多用途に対応可能な機械性能や操作性を、実演を交えて説明。研修生らは、かんきつ園での実用化を想定しながら説明者と意見を交わした。
- 当室では引き続き、関係機関と連携して省力化技術の導入を推進し、「柑橘王国えひめ」を支える中晩柑の生産量維持を目指す。



農業用無人車の活用により、傾斜園地でも防除や収穫・運搬など様々な作業の省力化が期待される

■さといもの生育順調

- 地域農業育成室は8月18日、農林水産研究所、JAえひめ中央と連携し、管内の生産者ほ場で、さといも地上部の生育調査を実施した。
- JAえひめ中央東部営農支援センター管内では、昨年からさといも「伊予美人」の産地化に取り組んでおり、安定生産技術の普及に向けて、関係機関と連携して指導を行っている。
- 当室では、この調査結果を基に、今後実施する地下部の調査結果と合わせ、地域に適した栽培方法を検討し、産地拡大を図る。



生育調査

■就農者への巡回指導を実施

- 地域農業育成室は8月11日から26日にかけて、農業次世代人材投資事業（経営開始型）を利用している就農者56人（松山市38人・東温市18人）を関係機関とともに個別に訪問し、青年等就農計画等における農地の利用や農産物の生産販売状況を確認し、優先すべき作業や対応等について助言指導した。
- 当日は、新型コロナウイルス感染対策の基本徹底に加え、戸外での打合せ・移動はできるだけ機関別・調査員間の距離保持など、コロナ禍での密を避ける工夫をして対応した。
- 当室は引き続き、新規就農者のフォローアップ・支援を行う。



早期成園化に向け、園地状況を確認

中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

■管内集落営農組織でさといもの巡回調査・指導を実施

- 伊予農業指導班は8月18日、管内集落営農組織を中心に、作付面積が大きく増えているさといも（愛媛農試V2号）について、農林水産研究所と、巡回調査・指導を実施した。
- さといもは近年、高単価で推移していることに加え、収穫等の作業期間が長く、比較的自分たちのペースで作業ができることから、今年、管内の集落営農組織だけでも栽培面積が2haを超えた。
- しかしながら、まだ栽培歴が2～3年で栽培管理方法に疑問・不安を抱える生産者も多いことから、今回、愛媛農試V2号の品種特性や、今後発生が予想されるカンザワハダニやハスモンヨトウ等の防除について指導した。
- 当班では、定期的に巡回して生育状況や病虫害発生状況を注視し、高品質生産や単収向上に繋げるとともに、農林水産研究所と連携し、関係機関を交えた研修を実施していく。



各ほ場を巡回し、生育状況を確認

■中山栗モデル園の生育順調

- 伊予農業指導班は8月6日、中山町農業者協議会（認定農業者）、JA えひめ中央、伊予市と、昨年度まで取り組んでいた地方局事業の中山栗モデル園等の巡回を実施した。
- 着実状況は良好で、本年度も200kg/10a以上の高収量が期待できる状況であった。
- また、老木園も、剪定班によるカットバック剪定により、樹勢が改善されつつある。
- 当班では、継続して中山栗モデル園の高収量確保や低樹高栽培の推進により、安定生産を支援、指導していく。



モデル園の巡回

■七折小梅生産安定プロジェクトチーム会議で連携を強化

- 伊予農業指導班は8月10日、七折集落で七折小梅生産安定プロジェクトチーム会議を開催し、七折小梅の生産安定に向けた取組の状況とその経過を報告、関係機関との情報共有を図った。
- これまでの調査結果から、開花の早晩が収量に影響を与えており、その中でも不完全花の発生が不作の要因となっていることが確認されたが、今年度は豊作年（80トン）でその影響がどの程度あったかを判断するには至らなかった。
- 砥部町からは、七折小梅の改植更新事業の概要説明があり、今年度から5か年で、年間1haを事業対象予定として実施されるとの報告があった。
- 優良系統母樹の選抜では、品質、収量ともに優れた結果を得られた系統が多く、今後、優良系統の増殖により、安定した生産量を確保できる可能性が見えてきた。しかし、今年の豊作年では小玉果も多く、品質安定のための栽培技術の確立が必要となっている。
- 当班では、七折小梅のより安定した収量と品質に向け、関係機関と連携し、事業の推進に取り組む。



プロジェクトチームの会議

■広田自然薯組合が伊予農業高校との夏季研修会を開催！

- 伊予農業指導班は8月3日、砥部町の広田自然薯組合の夏季研修会において、栽培指導を行うとともに共同ビニールハウスでの自動かん水方法を提案した。
- 研修会では、種イモ増殖用の共同ビニールハウス・新規栽培者のほ場を巡回し参加者と意見交換した。また、ウイルスフリー苗を培養している伊予農業高校生から研究報告が行われた後、当班から栽培の改善点や天敵防除について指導を行った。
- さらに現在、1時間以上かかる手かん水が組合員の負担となっていることから、省力化を目的に、かん水チューブでの実演を行い、自然落水でかん水可能であることを示した。
- 当班では今後、タイマーやフィルター等の必要機材等を検討し、組合に提案し設置を支援する。



新規栽培者のほ場で意見を交わす

中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

■久万高原町の在来種とうもろこしを全国誌「家の光」で紹介

- 久万高原農業指導班は8月10日から11日にかけて、農産物流通コンサルタントで(株)グッドテーブルズ代表取締役社長の山本謙治氏と「家の光」編集部から、久万高原町の在来種とうもろこし（通称：地とうきび）の取材を受けた。
- 以前、NHKの番組「列島縦断 宝メシグランプリ 2019」に同町の在来種とうもろこしを使った郷土料理「花粉(はなこ)ねり汁」が出品され、審査員だった山本氏が特に気に入ったことから、同とうもろこしを「家の光」で紹介することになったもの。
- 当日は、地元農家女性に花粉ねり汁のほか、とうきび飯などの料理を実演してもらい、農家の栽培方法や活用方法等の取材のため現地を案内した。また、当班においても、以前町内で収集した在来の雑穀を紹介し、意見交換を行った
- この取材は、「家の光」令和4年1月号で5ページにわたって紹介される予定である。



山本氏(左)の取材を受ける農家(右)



とうきび飯(右上)、花粉ねり汁(右下)、みそいも(左下)などの郷土料理を実演・取材

■収穫に向けて水稻の病害虫一斉調査を実施！！

- 久万高原農業指導班は8月10日、収穫開始約1か月前の病害虫発生状況の把握と対策を講じるため、第2回目の病害虫一斉調査を実施した。これは、昨年管内の水稻で初めてトビイロウンカによる坪枯れ症状が確認されたことから、当班が呼びかけ実施したもの。
- 当日は関係機関20人が4班に分かれ82か所のほ場で、払落しや捕虫網によるすくい取りのほか、100株当たりの病害発生状況の見取り調査を実施。その結果、今回の調査でもトビイロウンカや病害等の発生は確認されなかった。
- 当班では昨年度の傾向を踏まえ、病害虫防除所やJA等と連携し、9月末の収穫完了までトビイロウンカ等の発生に注視し指導していく。



ほ場で行われた調査8月10日

中予地方局 産地戦略推進室

■「甘平」の隔年結果対策となる結実管理の有効性を実証

- 産地戦略推進室は8月上旬、「甘平」の隔年結果対策として管内3ヶ所で実証している「大枝別交互結実法」の園地で、仕上げ摘果後の着果量を調査した。
- 各試験区は、昨年度も10a換算で2.8t以上の生産量があり、隔年結果の心配があったが、調査の結果、昨年と同程度の着果量が確保されており、慣行摘果区に比べて安定していることを確認できたことから、本技術が隔年結果改善に有効であることが期待できる。
- 生産者からは、「調査樹の着果は毎年安定している」「摘果が簡単で樹勢も維持できている」といった意見が聞かれ、同技術への高い関心がうかがえた。
- 当室では引き続き、裂果や果実品質等の調査を通して同技術に関するデータを蓄積し、講習会等を通じて成果を生産者に普及する。



調査樹の着果の様子

■東京での新たな販売チャネル構築を支援

- 産地戦略推進室では、コロナ禍で県内飲食店向け農産物需要が低迷する中、この状況を経営転換への好機ととらえ、東京での販売拠点整備などの新たな経営展開を試みる東温市の農家の構想実現に向け、補助事業のマッチングや事業計画の作成支援、技術支援等を継続的に行っている。
- これまで、取組可能な補助事業として「愛媛グローバルビジネス創出支援事業」のマッチングや事業申請に必要な経営計画の作成等について支援してきたところ、7月21日、農家の構想実現の第一歩となる、東京拠点（品川区）「謎の808（やおや）」のオープンに至った。
- この拠点では、毎週月・木曜日に店頭販売、毎週末には都内マルシェへの出展を行うほか、近隣飲食店への配達拠点として活用を開始している。また、東温市近隣の生産者の農産物を委託販売しており、地域活性化にも一役買っている。今後は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で遅延していた、冷蔵庫やトイレ等の施設整備にも着手し、9月に完成する予定。
- 当室では引き続き、農家の先進的な販売モデルとして指導支援を行うとともに、新たな取組についても検討する。



東京にオープンした店舗

南予地方局 地域農業育成室

■宇和島市の女性農業委員らが認定農業者制度について学ぶ

- 地域農業育成室は8月2日、宇和島市農業委員会などと連携し、同市の女性の農業委員と農地利用最適化推進委員4人を対象としたスキルアップ研修を支援した。
- 当日は、「認定農業者制度」をテーマに、まず同市の担当者が制度の概要と支援措置等を説明した後、当室から家族経営協定締結による共同申請や、女性が経営参画することのメリットなどについて紹介。
- 参加者からは「宇和島市における認定要件や認定農業者など担い手の現状が理解できた」「我が家は経営実態を把握したうえで、経営改善計画を作成し、家族で話し合い協力してきたので目標達成につながった」などの意見があった。
- 当室は、引き続き女性の農業経営への参画や女性の能力が最大に発揮できるようサポートしていく。



認定農業者など担い手育成について意見交換

■女性農業者対象の加工品開発研修会を開催

- 地域農業育成室は8月5日、女性農業者の加工品開発に向けた技術力の向上を目的に、宇和島市生活研究協議会員10人を対象に研修会を開催した。
- 当日は、「企業組合津島あぐり工房あすも」代表理事の山下由美氏を講師に、地元食材を使った料理を提供する農家レストランの経営や加工販売活動などの講話に加え、米粉を使ったパン作り講習を行った。
- 参加者からは「米粉パン作りのコツがよく分かった。いろんなアレンジに挑戦してみたい」などの意見があった。
- 当室は、今後も各種研修会等を通じて、女性農業者の商品開発力や加工技術の向上に向けた支援を進める。



米粉パン作りを学ぶ女性農業者

■さといもの産地づくりに向け様々な取組を展開

- 地域農業育成室は8月11日、宇和島圏域水田さといも生産振興協議会を開催し、局予算「種用サトイモ生産体制確立事業」の活動計画や産地づくりに向けた対応策等について協議。今後、関係機関と連携し、セル苗を使った優良種苗の確保、生育調査を通じた収量・品質の向上、さといも疫病の発生防止などに取り組むことを確認した。
- また、20日から25日は、JAえひめ南、農林水産研究所と連携し、管内の23ほ場で草丈、茎数、葉の大きさなどの生育状況を調査。9月以降、ほ場で掘り取り調査を行い、その結果等を踏まえたうえで、収量アップに向けた技術対策を検討する。
- さらに、26日は、同所と連携し、ドローン防除の実演会を開催。今般、ドローンで散布できる疫病に対応した薬剤が適用拡大されたことから、宇和島市三間町のほ場で防除作業を行った。当日は20aの防除が約5分で終了し、立ち会った園主からは「さといも栽培では夏場の防除作業が一番大変。ドローンで散布できるようになればとても楽になる」といった声が上がった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、農業者の参加人数を制限していたことから、今回の作業動画や散布成績などを整理し、今後の講習会等で周知していく。
- 当室は、今後も関係機関と連携しながら、優良種芋の安定生産と産地づくりを通じて儲かる水田農業の実現を図る。



生育調査



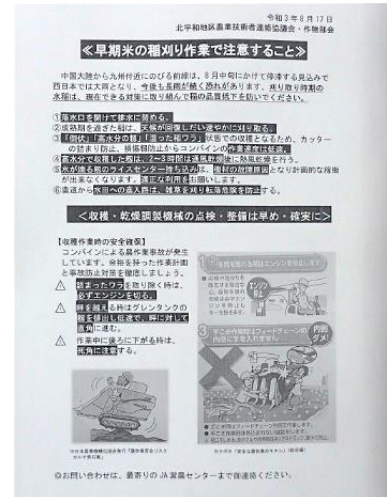
ドローンによる防除作業

■長雨に伴う早期米収穫時の技術対策について

- 地域農業育成室は8月17日、台風9号や8月11日からの長雨により、品質低下が懸念される宇和島、鬼北地区の早期米「コシヒカリ」の技術対策チラシを作成し、関係機関と連携し農業者に配布・指導した。
- 同地区では、8月6日の降り始めから16日までに306mmと平年の4.6倍の降水量があり、その後10日程度も降雨の予報で刈取適期を迎えた稲が収穫できない状況となっていた。
- そこで、長雨後の技術対策を的確に周知するため、「早期米の稲刈り作業で注意すること」として、水田の排水対策に加え、コンバインでの高水分籾の取り扱い、詰まったワラの取り出し時の農作業事故防止などの留意点をチラシに記し、JA等を通じて広く配布するとともに、刈取講習会等において指導した。
- 当室は、今後も気象災害等の状況に応じて適時適切な指導を行い、農産物の被害拡大防止により農業者の経営安定を図る。



湿った稲の刈り取りで詰まった脱穀部



配布した資料

■地域の状況に応じた「ひめの凩」の高品質生産に向けた取組を展開

- 地域農業育成室は8月25日、地域別の「ひめの凩」の収穫適期を把握し、適切な刈取時期を指導するため、管内6カ所のほ場に積算温度計を設置した。
- 「ひめの凩」の収穫適期基準は、出穂後の日平均気温の積算で900~1,000℃となっているが、管内の栽培地域は標高5mから200mと幅広いうえに、沿岸部や山間地など多様な地域で栽培されていることから、アメダスの気象観測ポイント3カ所に加え、今回、地域ごとの気温が把握できるようにしたもの。
- 当室は、今後、収集したデータを踏まえ、地域ごとの刈取適期を提示するなどきめ細かな指導を行いながら、消費者が求める良食味米「ひめの凩」の高品質生産を進めていく。



直射日光を避けコンテナ内に設置



出穂期のひめの凩と積算温度計

■温州みかんの品質向上を目指した新技術の実証

- 地域農業育成室は8月31日、温州みかんの更なる品質向上を目指して、宇和島市喜佐方地区でマルチドリップ栽培を行っている園地の畝間に防水・防根シート(S.シート)を埋設し、シールディング・マルチ栽培の実証を開始した。
- 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が開発したこの栽培方法は、排水に適した畝間の勾配があれば、適度な乾燥ストレスを与えることが容易な技術であり、品質が上がり難い園地での有効な手段として期待されている。
- 当室では、効果を検証しながら、品質向上対策の一手法として技術を確立していく。



バックホーで掘削



S.シートを溝に埋設



掘削土を溝に戻す

※シールディング・マルチ栽培：ポリエチレン製の防水・防根シートを畝間に埋設することで、従来のシートマルチ栽培の問題点とされる根域への雨水の流入や、マルチ外への根の伸長を防ぎ、樹体に確実な乾燥ストレスを付与する技術。既存園でも、排水に適した通路の勾配と畝があれば、改植の必要なく導入できることもメリット。

南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

■県立北宇和高等学校での「ひめの凜」出前授業を実施

- 鬼北農業指導班は8月2日、県立北宇和高等学校の2年生5人を対象に「ひめの凜」の穂肥診断の方法について、出前授業を実施した。
- 今回は、幼穂長の確認による穂肥時期の診断方法について説明。
- 学生と幼穂長を確認した結果、2mm程度のものが多く、穂肥の適期が訪れていることが分かり、近日中に施肥を行うように指導した。
- 当班は今後、同校と連携し、収穫前の葉色や食味スコアなどの調査に加え、ドローンを活用した防除や施肥技術の習得なども支援し、将来の「ひめの凜」の栽培者の確保・育成に繋げていく。

※北宇和高校は、県が育成・開発した品種の栽培技術の普及を図るため、農林水産研究所より認定を受け、「ひめの凜」の栽培実証試験を実施している。



幼穂を確認



防除や施肥に使用するドローン

■青年農業者の経営発展に向けた夏季研修会を開催

- 鬼北農業指導班は8月4日、青年農業者の経営管理能力向上や新品目導入等による経営発展を図るため、青年農業者や農業公社研修生等11人を対象に夏季研修会を開催した。
- 当日は、品目ごとの部門管理等を実践するための簿記個別相談会と、当班実証ほ場での視察研修を実施。視察研修では、当班が取り組む産地づくりビジョンの一環である「くりの大規模省力化栽培」や「キウイフルーツ花粉ビジネス実証」についても紹介し、新規栽培候補者への動機づけを図った。
- 参加者からは、くり収穫ネットの設置費用や収益性、キウイフルーツ花粉の販売方法や収穫時期等についての具体的な質問が上がった。
- 当班では引き続き、青年農業者と就農候補者を対象とした研修会を開催し、経営の発展及び農業者間の交流によるモチベーションの向上を図る。



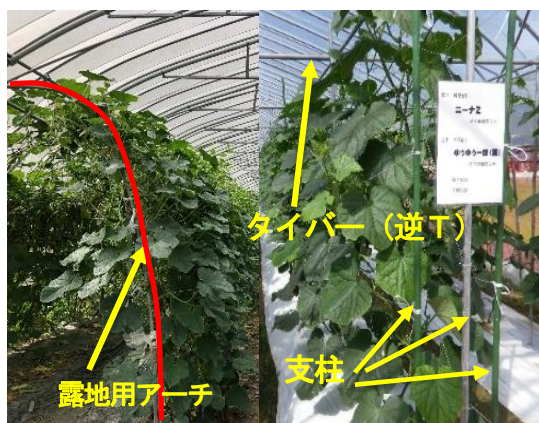
大規模くり栽培の紹介



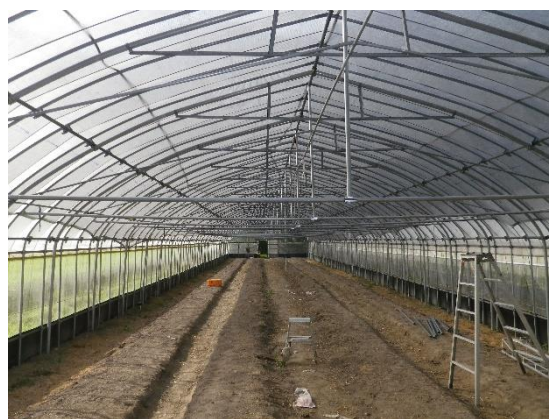
キウイ花粉ハウスの紹介

■きゅうりハウスの内部改修による品質向上、収量アップを目指して

- 鬼北農業指導班は8月3日、鬼北町父野川下地区においてきゅうりハウスの内部改修を実施した。
- 鬼北管内のパイプハウスによるきゅうり栽培仕立て法は、露地用アーチをハウス内に設置する方法が主流であり、生育が進むと日照不足による流れ果等の発生や、誘引ネットによる傷果の多発が問題となっていた。
- そこで、関係機関と総勢10人で、日照量の確保や傷果の減少が期待できる「1条振り分け摘芯栽培」に適したタイバー（逆T）を設置し、内張ビニールも展張できるよう改修した。
- この方法は、昨年度に当班が先行して（株）松野町農林公社のきゅうり研修ハウスにおいて栽培実証し、好結果を得たことから、現場での普及を目指すもの。
- また、同町愛治地区でも同様にハウスの改修を行い、9月上旬に定植する予定で、当班では、生育調査や収量調査を行い、栽培環境の改善を通じた品質向上、収量アップを進めていく。



従来のアーチ仕立て方法(左)と
1条振り分け摘芯栽培(右)



今回改修したビニールハウス

※1条振り分け摘芯栽培

畝中央と両側に支柱を設置し、主枝を中央の支柱に誘引しながら子枝、孫枝を両側の支柱に設置した紐に誘引する栽培。

南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

■令和3年産に向けた秋冬ブロッコリー作付け栽培講習会開催

- 愛南農業指導班は8月3日、JAえひめ南と連携し、秋冬ブロッコリー栽培講習会を開催した。
- 当日は、近年、定植前の大雨により適期に作付けできない場合が多いことから、ほ場の準備や定植は降雨前に行い、水田ほ場では高畝や明渠による排水対策を徹底するよう指導するとともに、連作ほ場で発生の多い根こぶ病対策について当班の実証状況を紹介した。
- また、JAからは、管内の主要品種の特徴や栽培時の注意点に加え、令和3年産秋冬ブロッコリーの定植に向けた準備について説明があった。
- なお、定植は8月上旬から始まっているが、長雨の影響で作業は計画より遅れていることから、当班では、JAと連携しながら長雨後の定植作業や栽培管理の指導を継続して実施する。



栽培ポイントを講習



定植されたブロッコリー

■河内晩柑の活用方法を学ぶ

- 愛南農業指導班は8月5日、生活研究協議会員9人を対象に、愛南町の特産である河内晩柑を活用した特産品開発研修会を開催した。
- 昨年は河内晩柑ゼリーについて研修を行い、商品化もされ好評であったことなどから、今回は「ご当地かき氷」の商品開発を目指して、生の河内晩柑により近いかき氷シロップの作り方を指導した。
- 参加者からは「おいしくできたので、他のかんきつにも応用したい」「煮沸消毒や充填の仕方など、加工技術の基本的なことがわかった」などの意見が聞かれた。
- 当班では、今後も研修会等を通じ、特産品の商品開発や加工技術の向上に向けて支援していく。



シロップづくりに挑戦する参加者



意見交換では農産物加工について協議

■愛南地区青年農業者協会がかんきつ園地互評会を開催

- 愛南農業指導班は8月6日、愛南町と連携し、愛南地区青年農業者協会のかんきつ園地互評会を実施し、会員14人が参加した。
- 当日は、会員が管理する河内晩柑や甘夏などの園地を巡回し、園主自ら日頃の管理の中で誇れる点や今後の改善点について紹介しながら会員相互で意見交換した。
- 特に、縮・間伐を実施している園地の見事な変貌ぶりに関心が集まり、作業の省力化や収量性について数多く質問が出される等、活発な議論が展開された。
- また、就農間もない会員にとっては、同世代の生産者との交流により気軽に相談できる仲間づくりのよい機会となった。
- 当班では、年1回の開催を予定していたが好評であったため、活動回数を増やすなどして、引き続き同会の活動を支援していく。



園地管理状況を聞き取る普及指導員



園主自ら管理状況を説明

■町内放送で長雨による適期防除の呼び掛け

- 愛南農業指導班では、関係機関と連携し、長雨後の栽培管理について防災無線を活用した「水稻、果樹の適期防除」の呼びかけを行った。
- これは、8月上旬から降り続いた長雨の影響で水稻の「いもち病」や、かんきつ類の「黒点病」「かいよう病」の発生が懸念されることから、愛南町の町内放送を利用して、8月24日から25日の2日間にわたり実施。
- 当班では、今後も迅速な防除を進める手段として防災無線を活用した呼びかけを行うなど、気象災害等による被害拡大防止に向けた指導を進める。



放送後に防除に向かう軽トラック

■地域商社的農業者の育成による新たな販売モデルの構築

- 南予地方局及び八幡浜支局産地戦略推進室は、コロナ禍における農産物の新たな販売モデルを構築するため、ECサイト等を活用し自らの商品と併せて他の農業者の商品も販売する「地域商社的農業者」を育成することとしており、管内の3名（大洲市、松野町、愛南町）をモデルに、取扱品目の拡大や販売スキルの向上を支援している。
- ヒアリングの結果、これらの農業者は現在、果樹や畜産物、加工品等を販売しており、今後「柑橘とセット販売できる有機栽培の米や野菜等」、「地元出身者向けの地域のこだわり産品」、「少量で高単価な希少品目や季節感のある果物」等を中心に品揃えを拡大したい意向があることを確認。
- 両室では、モデル農業者と委託販売を希望する農業者とのマッチングや研修会の開催等を通じ、新たな販売モデルの構築に繋げる。



モデル農業者（松野町）の販売サイト

■うめの収穫ネット設置方法の改良により作業効率化へ

- 産地戦略推進室は6月から8月にかけて、うめの収穫ネット設置方法の改良による収穫作業の効率化について実証試験を行った。
- 松野町の完熟うめの収穫では、地面に収穫ネットを敷き、落下した果実を手作業で集める方法が一般的であるが、果実が園内に散在することから、その作業には多大な労力を要している。
- 試験の結果、収穫ネットに傾斜をつけるなどの方法により果実が一か所に集まり、効率的に収穫できることを確認。
- 今後は、栽培講習会等で生産者へ結果を報告するとともに、各園地の状況に合わせて効率的な設置方法を指導することとしている。



収穫時間の調査



傾斜により一列に集まった果実

■今年産ゆずの着果状況を確認！ 今後の栽培管理指導を共有

- 産地戦略推進室は8月27日、鬼北農業指導班及びJAえひめ南と連携し、鬼北町、松野町のゆず園地を巡回して今年の着果及び肥大状況を調査した。
- 今年は、春先の低温や夏の長雨・曇天等の影響で樹による着果の差が大きく、全体として昨年に比べ生産量はやや少ない見通しであり、また、管理が十分行き届いてない園地も増えてきていることから、生産者への指導のポイントについてJAと申し合わせを行った。
- 鬼北地域は、県内最大のゆず産地であるが、生産者の高齢化により作業負担が大きくなっていることから、両室では引き続き省力栽培技術の推進と併せ、着果状況に応じた管理指導を行う。



園地状況の確認



樹により着果の差が大きい

南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

■農事組合法人笑柑園ナカウラの農地活用計画について検討

- 地域農業育成室は8月5日、伊方町中浦集落のかんきつほ場において、農事組合法人笑柑園ナカウラ*のほ場整備事業の導入を想定した農地活用計画検討会を開催し、同法人及び伊方町、南予地方局農村整備課等の関係者10人が出席した。
- 本検討会は、「西宇和地域柑橘集落営農組織支援事業」における同法人の経営力強化の一環として実施。
- 同法人は、集落内の優良園地を集約し、園内道や新品種のマルドリ栽培などを導入した省力的で魅力的な園地に整備する構想を持っており、当日は、スプリンクラー施設や農道及び標高、地番、面積と土砂災害警戒区域を地図で確認しながら、条件の良い緩傾斜地で、概ね5ha以上のエリアを候補地として選定した。
- 今後、候補エリアでの地主との話し合いや導入可能な事業の検討等を行うとともに、当室では関係機関と連携し、新技術導入モデル園の設置や先進地研修等を計画しており、同法人の取組をモデルとして活動を支援し、他集落への波及を目指す。



園地整備の可否について関係者で検討

※農事組合法人笑柑園ナカウラ

令和2年9月に伊方町中浦集落8人により、県内初のかんきつ地帯での集落営農を目的とした農事組合法人として設立。現在、40aのほ場を組合員が管理している。

■みかん収穫アルバイト確保説明会の開催

- 地域農業育成室は7月下旬から8月にかけて、関係機関と連携し、八幡浜市、伊方町の各地区雇用促進協議会（4協議会）の労働力確保説明会において、収穫アルバイトを希望する農家約140戸に対し、今年度の取組について説明を行った。
- 説明会では、PCR検査の実施やアルバイト求人サイトへの掲載方法、宿舍改修に係る助成金の紹介や、今年度見直した「西宇和版新型コロナウイルス感染予防に係るガイドライン」を農家に周知するとともに、昨年実施したアンケート結果を踏まえた労働・生活面での改善点を指導した。
- また、現在の感染状況を踏まえると昨年よりも県外からの雇用は慎重に対応する必要があることから、昨年の経験を踏まえ、ガイドラインを遵守した受入れと雇用期間中の行動自粛を徹底するよう申し合わせた。
- 今後、農家ごとにリピーターを含めた援農者の確保や求人サイトへの掲載希望の取りまとめ等を行うこととしており、当室では引き続き関係機関と連携し、さらなる感染対策を徹底しながら収穫時の労働力確保を支援する。



真穴地区で開催された労働力確保説明会

■第3回シトラス講座で鳥獣害対策を紹介

○地域農業育成室は8月23日、新規就農者等を対象とした第3回シトラス講座の収録を行った。今回は、伊方町地域おこし協力隊の伊勢典昭氏（R3鳥獣管理専門員講座受講中）と連携し、八西地区で問題になっているイノシシ対策として、鉄筋柵の設置方法について紹介した。



鉄筋柵の設置方法を紹介

○現地収録は伊方町瀬戸アグリトピアで行い、設置に必要な資材や器具を紹介しながら設置工程を実演するとともに、被害の実情や対策における留意点等を解説した。今回の講座の様子は9月中旬に、八西CATVで放送される。

○県公式YouTubeにはこれまでの講座内容を順次掲載しており、6月に実施した第1回目の「中晩柑の粗摘果」は、掲載3週間後には約300回が再生されている。なお、次回の収録は10月中旬に、「アシストスーツの紹介」を予定している。

■一次産業女子が就農相談会で農業の魅力を発信！

○地域農業育成室は、女性の活躍促進の一環として農業女子の活動を支援しており、8月21日に大阪で開催された株式会社マイナビ農業活性事業部主催「マイナビ就農FEST」への「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」の出展を支援した。

○当日は、同組織に所属する八幡浜市の野本沙希氏がリモートで参加。「自分らしく農業を楽しむ！」と題して、八幡浜市の概要や研修制度、6次産業化、一次産業女子としての活動などについて講演し、就農希望者等に対し農業の魅力を発信した。また、会場を訪れた参加者からの「実際に研修を受けるとしたら、どうしたらいいのか」「女性としてのやりがいや苦勞することは」等の質問に対し、アドバイスを行った。当室では、発表資料の作成や当日のリモートでの対応をサポート。

○当室では引き続き、女性農業者の活動支援とともに、関係機関と連携しながら就農相談会等を通じた新規就農者の確保に取り組む。



一次産業女子の活動について紹介



会場からの質問に対しリモートで回答

■南予の若手普及職員らが一致団結 相互研鑽で指導力向上を目指す

- 南予地方局及び八幡浜支局の地域農業育成室、産地戦略推進室は8月4日、八幡浜市内で、南予地域若手普及職員等育成プロジェクト研修会を開催し、管内の若手普及職員ら24人が参加。
- 本研修は、若手職員自らが運営し切磋琢磨することをコンセプトに、普及指導活動に必要な基礎的技術力、企画力、情報発信力の向上を目的として、今回初めて実施したもの。
- 当日は、先輩職員からかんきつスマート営農体系の確立に向けた活動事例の説明を受けた後、川上地区の温州みかん園地で、気象ロボットの活用方法やマルドリ栽培技術に加え、樹体ストレスの測定方法について研修した。
- 参加者からは「普及指導員として必要な知識やスキルを得るだけでなく、若手普及指導員のネットワーク構築につなげることができ有意義」と好評で、引き続き、若手職員による自主的な研修会を継続することで、一層の資質向上を図ることとしている。



スマート機器の説明を熱心に聞き入る若手職員



南予地域の農業活性化に向け一致団結

■異常気象にも対応、清見の高品質果実生産に向けたカルシウム剤散布試験を実施

- 地域農業育成室は8月23日、JAと連携し、現場で問題となっている清見の果皮障害防止対策として、カルシウム剤の2回目の散布を行った。
- 今年は、発芽・開花ともに平年より1週間程度早い状況で生理落果が多く、また、8月の降水量は中旬までで420.5mm（平年比527%）と、平年に比べ著しく多い状況となっている。
- この影響で、糖度は平年より低く、果実肥大は旺盛で収穫時に商品価値の低い大玉果の割合が高くなることが予想されるとともに、果皮が弱くなり果皮障害の多発による品質低下も懸念される。
- 当室は、今後も気象の変化に合わせた新技術導入の重要性を農家に啓蒙し、カルシウム剤散布の巡回指導を行うとともに、各種資材の効果的な使用方法等について検討する。



清見の健全果（左）と果皮障害果（右）

八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

■「さくらひめ」夏越し栽培に取り組む

- 大洲農業指導班は、内子町小田の「さくらひめ」栽培農家2戸と共に、平地では難しいさくらひめの夏越し栽培に取り組んでいる。
- 標高 600～900mの夏期冷涼な気候を生かし、栽培株を夏越しさせ利用することで高額な苗代を削減する試みの一つ。
- 収穫開始は、本来の8月定植したものより1か月早い10月上旬の見込みとなり、平地での栽培に比べ、収穫期間が短い当地区において早期出荷は大きなメリットとなる。
- また、本年初めて取り組んだ標高 600mの1戸は、8月中旬に予定外の開花があり、直売所「太陽市」で販売した。
- 当班は、定期的に巡回を行い、生育状況を確認しながら10月出荷に向けた栽培管理指導を行っていく。



農家と生育状況確認



収穫前の「さくらひめ」

■夏越しきゅうり安定生産に向け病害虫調査を実施

- 大洲農業指導班はJAや生産農家と協力し、8月から毎週定期的に、夏秋きゅうりと抑制きゅうり19ほ場の病害虫調査を開始した。
- 8月以降の高単価で推移する時期に安定的な出荷を目指すためには、夏越しきゅうりで問題となる黄化えそ病及び退緑黄化病の原因となるアザミウマ類とコナジラミ類の生育初期防除の徹底が重要。
- 当班では、本調査の結果を随時個別巡回や講習会等で生産者へ周知し、適期防除を促すこととしている。
- また、定植後の高温期は初着果節を上げ、着果負担を遅らせることが樹体強化につながり、収穫延伸に有効であるため、病害虫防除と併せて栽培管理の徹底を図り、夏秋きゅうり全体の安定生産による産地強化に取り組む。



病害虫調査を行う普及指導員

■いちご生産者全戸で炭疽病調査と硝酸態窒素測定を実施

- 大洲農業指導班は8月26、27日、JA、病害虫防除所と連携し、いちご部会全戸（30戸）の育苗床を巡回、炭疽病調査と硝酸態窒素測定を行った。
- 炭疽病は、感染株をハウスへ植え付けると欠株による減収を招くことから、苗の段階で早期に発見し、発病株の撤去を行っている。
- また、栽培品種の「紅ほっぺ」は、育苗期間中の葉の硝酸態窒素濃度が50ppmを切ると芽無し株の発生につながるため、各苗床でメルク試験紙を用いた測定を行い、健全苗育成に向けた適正施肥の指導を行った。
- 当班では今後、9月の検鏡による花芽分化を確認後、適切な定植時期の指導を行うこととしている。



硝酸態窒素を測定

■鳥獣害防止対策は地域一丸で！

- 大洲農業指導班は8月17日、JA愛媛たいき営農指導員（R3鳥獣管理専門員講座受講生）と連携し、大洲市森山荒平地区で地元農家2人、猟友会会員1人と鳥獣被害の状況について聞き取り調査を行った。
- 同地区では粟、水稻などの栽培が盛んであり、近年、イノシシによる食害が大きな問題となっている。そのため、農作物被害の防止策として防護柵（ワイヤーメッシュ）の整備を予定している。
- 当日は、参加者全員で集落見回りを実施。防護柵設置予定場所とイノシシによる被害箇所を確認した。また、被害防止のための適正な防護柵の設置方法や、ほ場周辺の草刈り作業の重要性等について農家へ説明した。
- 当班は、センサーカメラによる防護柵設置前のイノシシの出没状況を記録し、農家、猟友会会員へ定期的に情報提供するとともに、9月には防護柵設置研修会を開催し、座談会等を通じて被害防止に向けたトータル的なアドバイスを行うなど、鳥獣害対策への意識向上を図っていく。



農作物被害の聞き取り調査



防護柵設置予定場所の環境を集落で見回り

■大洲市で鳥獣管理専門員実践講座がスタート

- 大洲農業指導班では、鳥獣害対策について大洲市と内子町にそれぞれ重点地区を設定し、J Aや市町と連携した取組を進めている。このような中、このほど、鳥獣害対策を総合的に指導する鳥獣管理専門員をJ A愛媛たいき営農指導員が目指すこととなり、実践講座が開催された。
- 8月2日にJ A愛媛たいき本所で開催された同講座では、(株) 野生鳥獣対策連携センター 阿部豪氏を招き、当班の重点地区（大洲市森山荒平地区）の作付け品目、獣種、被害の状況について情報交換を行った。また、同地区では、防護柵（ワイヤーメッシュ）設置予定場所を現地で確認、イノシシの足跡の見分け方などについてアドバイスを受けた。
- 当班は、同地区以外でも鳥獣害防止対策の連携活動を強化し、J A職員では南予初となる鳥獣管理専門員の養成に向けた支援を行っていく。



重点地区での被害状況説明



イノシシの足跡の確認

八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

■水稻の刈取適期を積算温度計で可視化

- 西予農業指導班では水稻の適期刈取を推進するため、出穂期からの日平均気温と日数の積算を可視化できる温度計を7月末～8月にかけて宇和地区と野村地区に設置し、生産者が刈取りの目安をほ場で判断できる環境整備を図ってきた。
- 8月12日に主要5品種の適期刈取りまでの積算温度及び出穂後日数の目安早見表と温度計の確認方法についてJAと申し合わせ、コロナ感染拡大状況を踏まえて集合研修は行わず、生産者には資料を配布して刈取適期の目安を周知した。
- 今年度の早期米は、台風及び秋雨前線による長雨と気温の低下により、成熟が予測よりやや遅れていることなどから、普通期以降の品種についても積算温度計を活用し、適期に刈り取りを行うよう指導している。



ほ場に設置した積算温度計

水稻積算温度早見表（目安）

出穂後から成熟期の日平均気温の積算

品種	積算温度	出穂後日数	収穫適期目安 最長穂の黄変率率
コシヒカリ	900~1050°C	35日前後	75%程度
あきたこまち	850~1050°C		85%程度
ひめの雫	900~1000°C	40日前後	85%程度
ヒノヒカリ	900~1050°C	43日前後	85%程度
にごまる	900~1000°C	40日前後	——

- 出穂期：ほ場全体の半分程度で葉鞘から穂乳が現れた状態
 - 成熟期：全穂数の80%以上の穂首が黄化した日
または、穂の黄化が全穂数の80~90%程度が黄化した日
- ※高温が続くと成熟期が早くなる。ほ場観察の上、適期収穫に努める。
※地域やほ場環境により異なるため

2021.8作成

作成した積算温度早見表

■大野ヶ原にんにくの加工支援と販売促進！

- 西予農業指導班が西予市大野ヶ原で産地化を支援している寒地系にんにく「ホワイト6片種」が、8月17日から「むきにんにく」（真空包装）に加工され道の駅「アゴラマルシェ」（八幡浜市）等で販売されている。
- 収穫が梅雨時期と重なり玉割れが多く、販売に苦慮していることから、「むきにんにく」の加工を提案。8月1日に農福連携の推進と合わせ就労支援施設とマッチングを行ったところ、契約が成立し作業を委託した。
- 当班は県内加工業者との商談も進めており、引き続き生産者に対して安定生産に向けた技術指導を行うとともに、にんにくの販売促進と認知度アップに努める。



就労支援施設との皮むき作業のマッチング



道の駅でレシピとともに販売

■高品質生産による有利販売を目指して奥伊予特選栗の審査会を実施

- 西予農業指導班は8月4、5日、JAひがしうわと連携して奥伊予特選栗[※]の審査会を開催。審査員は東宇和栗生産同志会役員ら8人で、申請があった栗生産者39人の園地を巡回して審査を行った。
- 樹勢や結実、せん定や防除などの管理状況を評価しながら審査した結果、申請者全員が特選栗の出荷資格を得た。なお、今年の生育状況は昨年よりも大玉傾向であるが、収量は平年並〜やや少ないと予想される。
- 当班では引き続きJAひがしうわと連携し、肥培管理やせん定技術の指導等を行い、地域特産栗の高品質生産とブランド化を推進する。

※奥伊予特選栗

奥伊予特選栗審査委員会が実施する防除、せん定、土壌管理等の厳しい園地審査をクリアし、なおかつ、レギュラー品に比べ庭先選別や評価を徹底して出荷する特選栗。「愛」あるブランド産品に認定されている。



園地審査を行う審査員



今年産栗の結実状態

■ミニトマト夏秋栽培等における高温対策に向けた取組を推進

- 西予農業指導班は、ミニトマト夏秋栽培等で課題となっている夏期の高温による樹勢や品質の低下に対する暑熱対策を推進しており、7月下旬からJAひがしうわと連携して設置した実証ハウスで、循環扇及びミスト散水装置の導入効果を検証している。
- 8月26日に西予市城川町で開催した現地研修会では、ミニトマト及び大玉トマト生産者12人に対し、ミスト散水による実測データや体感によるハウス内温度の低下を報告。生産者の関心は高く、簡易なミスト散水チューブや現行の配管設備を活用する等、導入コストを低く抑えることが可能となれば、設備の普及が見込まれる。
- 当班では今後、JA、市等と連携し本技術の導入に際して活用可能な補助事業の検討を進めることとしており、ソフト、ハードの両面から夏秋野菜産地の維持発展を支援していく。



ミスト散水等の現地研修会



ミスト散水によるハウス内の暑熱対策

南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

■加工用青ねぎの夏季育苗に関する実証試験をスタート！

- 産地戦略推進室は8月18日、加工用青ねぎの夏季育苗において、高温等の影響で苗の生育が不良となる課題に対し、改善に向けた実証試験を開始した。
- 実証内容については、加工用青ねぎの生産を担う（株）百姓百品村の担当者と協議した結果、育苗培土の温度上昇や乾燥を抑制する培土組成の検討や白色セルトレイの利用等、合計3試験を実施することとなった。
- 当室では、上記試験の定植時調査（9月中下旬）のほか、夏季の収量低下対策として、本ぼでのかん水等の効果実証も予定しており、引き続き生産技術の改善に努めていく。



試験方法について百姓百品村担当者と協議



白色セルトレイ等の実証を開始

■かんきつを利用したフルーツソースの商品化に向けて

- 産地戦略推進室は8月17日、八幡浜市高野地において、先に開催した特産品開発講座の次のステップとしてフルーツソースの商品化検討会を行い、（企）高野地フルーツ倶楽部会員7人が参加した。
- 当部会では、商品アイテムを増やすことが課題であることから、既存商品のジャム、マーマレードに加えてフルーツソースの商品化を目指しており、県内他産地の2商品との比較やパウチの種類、大きさなどについて意見交換を行った。また、導入を考えている液体充填機についても併せて検討した。
- 試食では、食感、糖度、色や内容物など参考にしたい点について活発な意見があったほか、使用するパウチの種類についてもサンプルを活用しながら決定することとなった。
- 当室では、今後も製造技術確立や販売支援を通じて、女性農業者の起業活動支援と売れる商品づくり活動を推進していく。



他産地商品との食味、外観比較

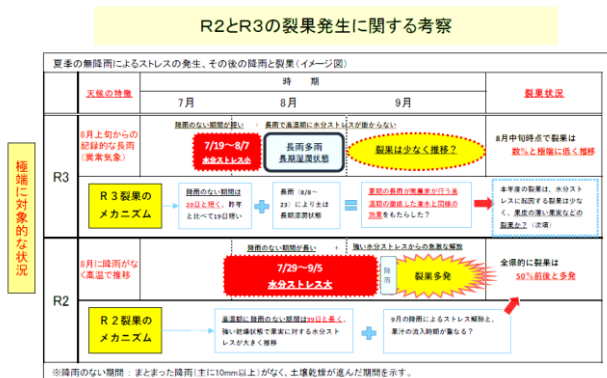


パウチについて意見交換

農産園芸課 高度普及推進グループ

■ 「甘平」 裂果のメカニズムについて果樹調査研究会で協議

- 高度普及推進グループは8月25日、普及指導員果樹調査研究会をリモート形式で開催し、普及指導員等51人参加のもと、本年度の裂果状況及び裂果要因について協議した。
- 同会では昨年までに、高温期に強い土壌乾燥が起こりそれに見合ったかん水ができなかった場合には、幼果がストレスを受けその後の降雨やかん水で裂果が多発すること、また、極端に裂果率を低く抑えている園地では、根域がある下層域まで湿潤に保つため、特に高温となる8月には反当200t以上の多量のかん水を実施していること等が報告されている。
- 各普及拠点からは、裂果対策に取り組む園地での多かん水やマルチ被覆などの実証経過が報告され、当グループも現在の各園地の状況等を映像でも紹介した。
- また、当グループは、今年度の途中経過として本来、最も高温で乾燥する8月が記録的な長雨となったことから、県下全域で樹体に水分ストレスがかからず、このまま強い乾燥が起こらない限り、今年度の裂果は引き続き極端に少なく推移すると予測。それでも裂果が多発するほ場では、昨年産の収穫期以降に十分樹勢が回復せず、開花期以降の果実生育で果皮が薄くなっていることが主要な裂果要因になること等を説明した。
- なお、同会での説明及び議論の様子や園地の映像は、リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムのサーバーにデータベース登録しており、後日見直すことが出来るほか、当日参加できなかった職員や研究会員以外の職員も閲覧ができるようにしている。



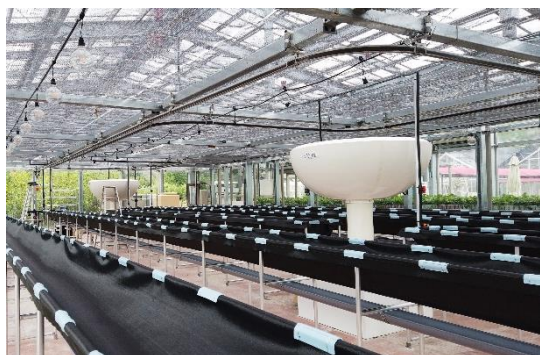
今年の裂果発生のメカニズム (イメージ図)



リモート会議で裂果要因を解説

■タオル美術館等でいちごの新規格栽培システムを設置、実証をスタート

- 高度普及推進グループは8月6日から今治市の観光施設でいちごの新規格高設栽培システムの設置を指導するとともに、西条市、松山市でも同システムの設置、改良を行った。
- これは、いちごの高設栽培において、反当7t以上の高収量を確保するため新規格栽培システムの確立と観光施設における県オリジナル品種の栽培及び青果、デザートでの提供によるPRを目指して実施するもの。
- 昨年度、既存のシステム以上に厳寒期においても連続した出蕾やこれまでより多い果数を確認するなど良好な生育を確認した一方で、旺盛な生育により既存の給液量では不足することが確認されたことから、今年度導入するシステムでは点滴チューブを従来の1本から2本設置するなどし、生育状況に応じて給液量を増やすことが可能になっている。
- 当グループは、本年度より土壌中の肥料濃度の変化に細かく対応した栽培管理技術の確立にも取り組む予定で、いちごの高収益栽培技術の確立により県下産地の競争力強化を図っていく。



タオル美術館での新規格ベットの設置（今治市）



培土量増量に伴う栽培ベットの改良（西条市）

■さといもの生産振興に向け、出荷前の掘取調査を実施

- 高度普及推進グループは、さといもを生産販売する農業法人と8月3日から大洲市の栽培ほ場で、本年度の販売開始に先立ちさといもの掘取調査を実施した。
- 調査では、本年度の春先からの好天にも恵まれ8月上旬には収量が2kgを超える株もあるなど、生育初期からかん水が実施できたほ場の反収は、8月末時点で3tを超える見込みであることを確認した。一方、5月上旬以降、十分なかん水ができなかったほ場では生育が抑制され、芋1個重に大きな差はないものの、子芋と孫芋の着数に約1.5~1.9倍の差があることを確認した。
- 同法人では、高単価が期待できる10月上旬までに収穫を終える予定で、小芋は専用の貯蔵庫で種芋用に保管され来春販売する予定。
- 同法人では、「大洲名産さといも」として業務向けや量販店60店舗等で8月27日より販売を開始し、量販店での小売価格は宮崎県産の約2倍の価格となる1袋398円(500g)。
- 当グループでは高単価が期待できる早期出荷や種芋貯蔵技術の確立を通して、県内さといもの生産振興を図る。



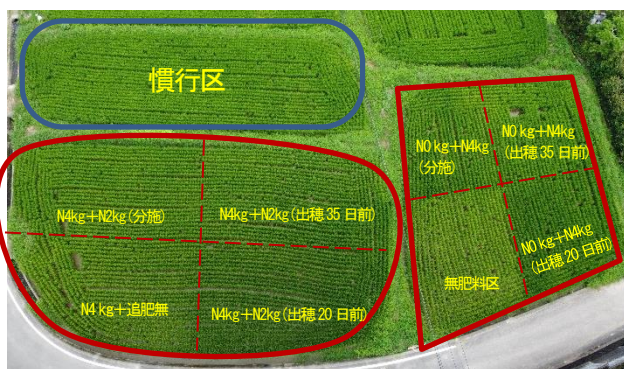
充実した茎葉は株元や畝間を遮光し、
土壌の乾燥や地温の上昇を抑制



十分なかん水を行うことで子芋や孫芋の
形成が促進されている(右株)

■「ひめの凜金賞プロジェクト」穂肥と生育調査を実施

- 高度普及推進グループは、良食味米の生産技術を確立するための「ひめの凜金賞プロジェクト」に取り組み、8月上旬から県下3か所の実証ほで追肥試験を行った。
- 各実証ほでは、これまでに分けつ数を抑制するためにほ場条件に合わせた施肥や水管理を実施。8月以降の追肥は食味を左右する玄米タンパク質含量に大きく影響するため、施肥量、時期別に複数区画に分けて施肥を行うとともに、一部ほ場では光合成色素合成の前駆体である5-アミノレブリン酸を含む液肥の効果についても調査している。
- 調査では、春先以降の好天等により施肥量の多い試験区では想定以上に分けつ数が多くなっているほか、一部の实証ほでは高温期の長時間の滞水により表層にある細根が黒変していること等を確認しており、生育や食味への影響を注視しているところ。
- 当グループでは、試験区別の生育データと食味スコア等を調査、検討することにより県育成ブランド米の良食味栽培技術を検証していく。



区画ごとに施肥による葉色の変化をドローンで上空から確認（松山市）



出穂期の滞水による根の黒変（対照区：写真左）

■コロナ禍に対応した水稲採種ほ場の非接触型審査がスタート

- 高度普及推進グループは、伊予市、松前町の水稲採種ほ場において、8月12日よりコロナ禍の対策として生産者と接触しない審査を実施している。
- 同審査では、これまで生産者が現地を案内するとともに対面で審査結果の説明をしていたが、審査員と生産者との接触を避けるため、最小限の人員で行えるよう審査を2回に分け、当グループが事前に作成したマッピング地図を基に審査員のみでの審査を実施している。
- 今回の事前審査では、290ほ場（6品種）をA・B・Cの3ランクに分け管理状況を評価するとともに、各ほ場の指摘事項等を書面で生産者に通知しており、本審査までの改善を求めている。
- なお、今回、採種する全ほ場がマッピングできたことから、品種ごとの作付けや病害虫、雑草の発生状況等の管理情報が、生産者と関係機関の間でより分かりやすく共有されている。
- 当グループでは、引き続き効率的で精度の高い審査体制を整備することにより優良種子の生産・供給に取り組む。



採種ほ事前審査の実施状況



採種ほ場のマッピング（ペーシマップ：ESRI）

■首都圏での流通・販売動向等調査の検討会の開催

- 高度普及推進グループは8月11日に、「令和3年度普及指導員による首都圏での流通・販売動向等調査」に参加する普及指導員5人を招集し検討会を開催した。
- 調査品目の「かんきつ」「さといも」のPR動画の撮影は当初の計画どおり進んでおり、両品目ともに10月末までには撮影を終える予定で、11月初めには動画が完成の見込み。
- また、当グループによる「コロナ禍の消費動向と商品づくり」、「動画撮影、編集」「ドローン撮影の操作」の研修を実施し、調査員の資質の向上を図った。
- 今後、10月末にPR動画の最終撮影や編集のための検討会を開催する予定。
- なお、作成したPR動画は、新型コロナウイルス感染拡大により、首都圏での調査活動が中止となった場合でも、首都圏の県産品を取り扱う量販店等で上映し、県産品販売促進に活用する。



動画の撮影状況の報告と協議



ドローン撮影の操作研修

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543